

未来都市創造に関する特別委員会記録

- | | |
|------------|----------------------------|
| 1. 会議の日時 | 令和7年3月12日（水）午後3時0分～午後4時23分 |
| 2. 会議の場所 | 第2委員会室 |
| 3. 会議の議事 | 下記のとおり |
| 4. 出席委員の氏名 | 下記のとおり |

協議事項

1. フィールドワークの実施結果について

出席委員（欠は欠席委員）

委員長	門 田 まゆみ			
副委員長	大井 としひろ			
理 事	山下 てんせい	吉 田 謙 治	前 田 あきら	木戸 さだかず
委 員	原 直 樹	岩 佐 けんや	香 川 真 二	大 野 陽 平
	三木しんじろう	大かわら 鈴子	よこはた 和幸	平 井 真千子
	欠坊 池 正			

議 事

（午後 3 時 0 分開会）

○委員長（門田まゆみ） ただいまから、未来都市創造に関する特別委員会を開会いたします。

本日は、フィールドワークの実施結果について御協議いただくため、お集まりいただいた次第であります。

なお、坊池委員より病氣療養のため欠席する旨の届出がありましたので御報告申し上げておきます。

最初に、自由民主党さん、日本維新の会さん、日本共産党さん及びつなぐさんから、本日の委員会の模様を写真撮影したい旨の申出がありますので、許可いたしたいと存じますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（門田まゆみ） 次に、本委員会の模様を神戸新聞さんから録音をしたい旨の申出がありますので、許可いたしたいと存じますが、御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（門田まゆみ） それでは、許可することに決定いたしました。

まず、本委員会の進め方ですが、本日の委員会では、3つのグループに分かれて実施しましたフィールドワークにつきまして、各グループの幹事から実施結果を御報告いただきます。

報告の後に、ほかの委員から報告に対する御質問や御意見をお聞きします。全てのグループの実施結果の報告が終了しました後、今年度のこれまでの活動を踏まえまして、調査テーマ、子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくりに基づく委員間討議を行います。

次に、今後の委員会の進め方ですが、本日の委員会終了後、理事会で議事を整理しまして、次回の委員会で、委員会活動報告書案をお示しいたします。

次回の委員会では、報告書案について、さらに討議を行い、以降の委員会で報告書案を完成させてまいりたいと考えております。

以上のとおり、委員会の活動報告をまとめてまいりたいと存じますが、御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（門田まゆみ） それでは、フィールドワークの実施結果について御報告いただきたいと存じます。

まず、将来の子育て世帯を調査対象にフィールドワークを実施したグループAの実施結果について、山下理事から御報告をお願いいたします。

○理事（山下てんせい） 未来都市創造に関する特別委員会グループAフィールドワーク実施報告でございます。

グループAの幹事しております山下でございます。

私からは、将来の子育て世帯を対象としたフィールドワークの実施結果について御報告いたします。

グループAでは将来の子育て世帯ということで、10代から大学生といった若年世代が対象となっております。このため、高校生に対する調査としまして、市立高等学校に御協力をお願いし、高校2年生を対象とした意識調査を実施しました。また、大学生世代に対する調査としまして、

2025年神戸市はたちを祝う会の代表スタッフとの意見交換を行いました。

日本では、結婚をして出産・子育てをしているケースが圧倒的に多いため、将来の子育て世帯となり得る高校生、大学生に対して、結婚観や子育て、ワーク・ライフ・バランスを中心に考え方をお聞きしました。

意見交換についてです。まず、神戸市はたちを祝う会の代表スタッフとの意見交換につきましては、令和7年1月19日に代表スタッフ4人の方と、グループAの議員5人で意見交換を行いました。意見交換の内容は、主に神戸に住んで思うこと、結婚観、子供を持つこと、ライフプランの4点です。

また、この内容に関連して幾つか意見交換をいたしましたので、3ページ以降に合計8項目を追加で記載しております。

主な内容を御紹介しますと、報告書1ページを御覧ください。

神戸に住んで思うことですが、神戸の押しポイントとしましては、観光客に人気で、観光スポット、おいしい名物があり、知名度も高い。ちょうどよいぐらいの都会である。大きなイベントが神戸でもたまには開催され、大阪へのアクセスもいいし、東京ほど人が多くない。海側と山側があって、自然が融合しており、よい環境である。気軽に海・山に行けるし、ショッピングもできる。いろいろな趣味を見つけることができるといった御意見がありました。

一方で、神戸の残念なところとしましては、駅から離れた地区が高齢化している。公共交通機関でアクセスができない地域があり、学生だけで行動ができず、習い事、部活も親の送迎が必要だった。神戸の北側は交通の便がよくなく、神戸に住むなら南側を選びたい、こういったことが市内の人口不均衡につながるのではないかと。観光面では、神戸の玄関口である新神戸駅前に目立つ観光地がない。新神戸駅から三宮、新神戸からハーバーランド、元町からハーバーランドといった動線を考えると、距離があり、移動が不便だ。また、山の多い北区に新しい観光地があればいいといった御意見で、複数の方が交通の利便性についてコメントされました。

次に、報告書2ページを御覧ください。

結婚観につきましては、いずれも理想の年齢までに結婚したい、または、相手がいれば結婚したいとの御意見で、子供が好き、人生が楽しくなりそう、1人は寂しいなどといった理由からでしたが、結婚に対して前向きな意見が多く、この点は喜ばしく、頼もしく感じております。

結婚したい理由としまして、結婚したほうが老後が寂しくないからという意見があり、意外に感じられた議員からその理由をお聞きしました。

報告書の6ページ、6番になりますが、老後を意識する理由として、SNSや学校の授業の影響があるようで、老後や介護に関する情報に触れる機会があるようです。

報告書の2ページにお戻りいただきまして、子供を持つことにつきましては、将来、子供が欲しいという方は3名、迷っているという方が1名おられました。

迷っている理由としては、子育てに関して経済面で不安があるとのことでした。

子供が欲しい方の中でも、仕事をしながら子育てできる環境として、保育所問題などを心配する御意見もありました。

子供を育てながら仕事をする環境に不安があるとの意見がありましたので、報告書の4ページ、3番を御覧ください。

仕事と子育ての両立についてお聞きしたところ、自分のキャリアを積むために子供を諦める方も多いのではないかと。男性の育休が実際どれぐらい浸透しているのか分からない。女性の場合、

仕事で昇格する時期と出産適齢期が重なる。出産適齢期と仕事を頑張れる時期がずれたらいいといった御意見がありました。

今回、意見交換に出席されたのは全て女性の方でしたが、女性のキャリア形成と出産・子育ての両立について不安を感じる意見が複数あり、社会全体で子育てをしながらキャリア形成ができる環境について考えていく必要性を感じます。

次に、報告書の3ページですが、ライフプランについて、仕事、家庭生活、プライベートの優先順位は人それぞれの回答でしたが、仕事の優先順位は思ったよりも低めな感じがいたしました。3つとも、それほど差はなく、同じぐらい頑張りたいとの意見や、出産後も仕事に復帰できるよう、結婚する前に仕事の経験を積んでおきたいといった意見もありました。

また、結婚する年齢については20代と答えた方が3名と多く、30代と答えた方は就職先の業界の先輩方に聞いた印象で、30代になりそうとの御意見でした。

このほか、報告書5ページの4番ですが、神戸に住み、神戸で子供を持つという選択肢については4名のうち3名の方は選択肢としてあるとのお答えをいただきました。

一方で、選択肢として、ないとされた方は、神戸でしばらく働いてから東京や海外に出ていきたいとのことでした。

また、神戸で子育てをするイメージがないが、将来的に子育てによい環境であれば神戸でもよいというお答えをいただいております、働く場、子育て環境が回答に影響しているように思われます。

また、その下の5番ですが、子育て支援策について充実させてほしいことを伺ったところ、東灘区では、中学受験する人が多く、進路選択の情報が多など、区によって情報量に格差があるとの御意見がありました。

北区は高校を選択する際に、三田市の学校を選択することが多い、北区と南側の区で公立中学校の定期テストのレベルも違うとの御意見がありました。

このあたりは子育て支援というよりは、実際に神戸で学生時代を過ごした感想ですが、将来、結婚し、子育てをする際の居住地を選ぶ際に影響することと考えられます。

続きまして、高校生意識調査についてであります。

報告書8ページを御覧ください。

結婚、子どもを持つこと、夫婦・パートナーとの役割分担、ワーク・ライフ・バランスに関して、市立高校の2年生を対象に行った意識調査について、主な内容を御紹介します。

まず、結婚観につきまして、理想の年齢までに結婚したいと、相手が見つければ結婚したい、この2つを合わせて7割超となっておりますが、一方で、すぐに結婚したいとは思わない、一生結婚したいとは思わないが、全体の4分の1を占めています。

令和2年の国勢調査では、未婚率は男性が31.9%、女性が23.3%で、今回の調査結果ともそれほど乖離しておりません。

報告書9ページを御覧ください。

結婚年齢につきましては、全体の半数以上が20代で結婚するのが理想だとの回答でした。

一方で、厚生労働省人口動態統計によると、令和5年の平均初婚年齢は夫が31.1歳、妻が29.7歳となっております。

将来希望する子どもの人数につきましては、7割を超える方が子どもが欲しいと考えており、希望する人数は2人が36%と最も多くなっています。

その一方で、厚生労働省の人口動態統計によると、1人の女性が一生のうちに産む子どもの数

の指標となる合計特殊出生率は、令和5年に1.20となり、8年連続で前の年を下回り、過去最低となっています。

報告書10ページを御覧ください。

夫婦・パートナーとの役割分担につきましては、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきとの考え方についてどのように思うか問いましたところ、そう思わないと、どちらかといえばそう思わないを合わせて7割の方が否定的な回答で、どちらかといえばそう思うと、そう思うの合わせた肯定的な意見は3割となっています。

一方で、18歳から29歳の男女に対して、令和4年に内閣府が行った同様の調査結果では、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきであるという考え方について、反対と、どちらかといえば反対を合わせた否定的な意見は約8割、どちらかといえば賛成と賛成を合わせた肯定的な意見は2割弱で、比較すると高校生の調査結果は肯定意見がやや多い印象です。

結婚後の収入に関する自分や結婚相手の役割については、共働きを望む意見が8割、どちらか一方が専業主婦、あるいは専業主夫がよいとの意見は17%にとどまっています。

内閣府の男女共同参画白書令和4年版によると、実態としても働く夫と専業主婦の世帯は減少し続けており、共働き世帯は、夫婦のいる世帯全体の約7割に達しています。

以上、簡単な説明となりますが、御説明できなかった意見交換や調査結果の詳細は、資料に掲載してありますので、御覧いただければと思います。

補足があれば、グループAのほかの委員からお願いします。

○委員長（門田まゆみ） ありがとうございます。ただいまのグループAの報告について、御質疑等がございましたら御発言をお願いいたします。

特に、質疑というのはございませんか。補足はいかがでしょうか。ございませんか。

○委員（香川真二） 世代を分けて調査をしたというので、その世代には特徴があるはずだと思うんですね。ですから、今回のアンケートを通じて、この若年世代っていうのはどの部分に子育てのまちとして神戸を選ぼうとするような、何か特徴が見えたのかっていうのを1点か2点ぐらい、ちょっと教えていただきたいんですけど。お願いします。

○委員長（門田まゆみ） いかがですか。

○理事（山下てんせい） そうですね、今回行ったのが、いわゆるインタビューと無機質な調査になっておりますので、無機質な調査のほうは、実際、アンケート、ここから何かが見えてきたかっていうのは、ちょっとないです。

ただ、はたちを祝う会のスタッフの皆さんとお話をしたときには、案外と神戸で子供を育てたい、神戸で結婚したいっていう声が大きかったと。神戸が好きなんだっていうのは、印象としてあったのですが、結局、じゃあ、それを阻んでいる、拒んでいるのは一体何なのかっていうのは、ちょっと見えてこなかったですね。

将来は絶対に神戸で働きたいっていうお声がね、やっぱり選択肢としてありますので、ちょっと働く場所が少ないのかなとか、あるいは子育て政策に関しては、やっぱりもっと充実させてほしいというふうな意見が強かったなので、その辺かなと思います。

○委員（平井真千子） 私も所見に書かせていただいたこととかぶるんですけども、4名の方にヒアリングして、お答えの中で印象に残ったのは、2人ほど、郊外に住まれてる方が、やっぱり神戸の中での地域格差っていうことをすごく言葉として表現されてたのが印象に残りました。

若い方なので、自分でそこに選んで住まれたわけではなく、親御さんが、いろいろ理由があっ

て、郊外の住宅を選ばれたってことですけれども、非常に通学なんかで不便を感じている。その交通の面の話でありますとか、その後で子育て支援とか、教育の話になったときにも、その教育格差っていうことも地域によってあるんじゃないか、自分たちの生まれた地域、育った地域っていうのが、ほかの地域との、都心部との格差を埋めてほしいというような意見があつて、ただやっぱり自分たちが生まれた地域は好きで、都心部に出ていきたいというよりは、自分たちの今いる郊外でもっと便利になったらいいのになっていうような御意見を持たれてたので、これはまだ社会に出ていच्छゃらない方ならではの感じ方なのかもしれないんですけども、そこに私としてはちょっと意外といいますか、また非常にその思いを実現してあげるのがなかなか難しい希望を持たれているなっていう印象を1つ持ちました。

それと、女性の方々でありましたので、特に若くても、やっぱり出産とか、結婚とか、今後のキャリアについては、それなりのイメージを持ってらっしゃるのかなというふうに感じたんですけども、やっぱり自分たちがこれから社会で活躍したいという思いを持っていच्छゃって、それが結婚とか出産によって、仕事のキャリアが中断したり、挫折するんじゃないかっていう、一番自分たちが仕事で脂が乗ってくるような時期に、そのキャリアの分岐点を迎えるような時期に、結婚・出産の適齢期が来るっていうことに対する不安っていうことも、口にされてましたので、私から見たら子供の世代ですけども、私の子供世代になっても、私の世代と変わることはない、何ていうか、結婚に対するネガティブ感っていうのを——結婚・出産に対して何がネガティブなのかっていうことが全く世代を超えても変わってないんだなっていうことが、ややショックといいますか、ずっと課題と言われていることが、結局、今の若い人にしても、解決されずにあるんだなということが印象として感じました。お答えになってるか全然分からないですけど。

○委員長（門田まゆみ）　ありがとうございました。

○委員（香川真二）　ちょっと、あんまり理解ができなかったんですけど、子育て世帯に選ばれないといけないうちを目指そうということなんで、その人たちから、どうしたらそういう選ばれる神戸になるのかっていうところを聞き出そうというのが目的ですよ、今回のアンケートは。となれば、若者が将来子育てを自分がするときには、こんなまちになってくれてたらいいいねっていうふうな、何かそういう要望みたいなのはなかったのかなと思ってるんですけど。これは神戸の中で選ぶんじゃなくて、神戸と他都市間での比較で、やっぱり差を見ていかないといけないと思うんですけど、そのあたりは何かなかったんですね。こういうまちになってくれたら、私たちは神戸で子育てをしたいと思うっていうふうな、そういう要望なんかと思ってたんですけど、出てくる答えがね。そういうのはなかったですか。

○理事（山下てんせい）　結論から言うと、なかったです。非常にドメスティックな質問をしましたので、今回。というのは、基本的に神戸のまちの中で、学生で——はたちを祝う会の代表スタッフの中には、海外の大学に行かれてる方もいच्छゃるので、全員が全員、神戸の子っていうわけじゃないんですけど、やっぱり神戸出身の子が実際に一生懸命答えてくださったんですけど、基本的に、それほど他都市に比べて何が羨ましいとか、神戸に足りないものは一体何なんだとかっていうことに関しては、あえて聞かない。むしろ、現在二十歳の皆さんの生の声っていうのを聞きながら、神戸をどう思ってるのか、神戸好きですかとか、そういったものを基本的に軸足を置いて聞いたんですね。

香川委員が、これは神戸をこれからどうしたらいいのかを調査するための委員会だろうっていうふうにおっしゃったんですが、正直な話、それをやろうとしたら、物すごい膨大な調査が必要

になるし、やっぱり対象の精査も非常に重要になってくるんで、だから、むしろそれを酌み取ろうとしたら、高校生の意識調査が、これ1,872名中、回答者が656名ですから、回答率35%、かなりの回答率がありますので、そっちのほうを概観して分析されたらどうかなと思います。

○委員長（門田まゆみ） 報告書の8ページに、一応、希望っていうのがありますので、それも御参照いただきたいと思います。

○委員（香川真二） 結構です、もう。

○委員長（門田まゆみ） ほかにございませんか。

（なし）

○委員長（門田まゆみ） 次に、市内企業・事業者を調査対象にフィールドワークを実施したグループBの実施結果について、木戸理事から御報告をお願いいたします。

○理事（木戸さだかず） 資料の34ページ、ちょっとページ数が打ってないんですけど、ダウンロードしていただいた資料でページ数確認していただいて、34ページを御覧いただけたらと思います。よろしいですかね。

まず、表紙つくってるんですけど、今、香川委員のほうからも話ありましたけども、目的というんですかね、若者及び子育て世代の雇用に関する市内企業・事業者の調査報告書ということでまとめさせていただきました。

35ページを御覧いただけると、ミッションということで、このグループは何をしたか、何をすべきかっていう与えられたテーマは——若者及び子育て世代が神戸で働きたいと思えるために、企業の取組、雇用状況、雇用への課題を明らかにするというのが、与えられたミッションでした。

そのためにアンケートを取りました。

まず、商工会議所宛てのメールマガジンに掲載、約2,500社あるということで、一緒にメールでアンケートを送りました。

あとは、ミモザ企業を含む市内企業・事業者へ郵送ということで、大体ざっと選んでもらって、600通、実際に郵送いたしました。回答数がそのうち139社ということで、商工会議所にメールをしても、なかなか返事が、いろんなものと混ざるので、ないということでほぼほぼこの139は、郵送した分から返ってきたんじゃないかなと思っておりますので、大体20何%ということで、普通のアンケートをやったときと同じような回答率が得られたんじゃないかなと思っています。

36ページからなんですけど、アンケートを取ったうちの、ざっとした要領をつかむために、それぞれ抜粋してまとめさせていただいています。

分析ということで、まず求人についてなんですけど、そのページの下、ちょっと色つきのところを見ていただいたらいいかと思うんですけど、今の若い世代の求人の状況なんですけど、募集をしても十分な応募がなかなかないという状況がアンケートから見受けられました。特に、小規模、中小零細と規模が小さくなるにつれて十分な応募がないという状況、傾向があるということが分かりました。これにつきましては現在も求人倍率が1.4倍ぐらいなので、やはり売手市場になっているかなということで、アンケートにも出てきたかなということで考えております。

次、37ページなんですけど、情報取得というテーマで、若い方たちが求人情報——若い人の求人について、求人情報を発信する際に使用している広告媒体でよく使用するものということで、企業側がどんなものを使用しているのか、または若い人がどんなものを利用してると思われるのかということで質問させていただきました。

それで、下でまとめさせていただいたのが、応募者、要は若い方の情報取得は、やっぱり求人サイトが圧倒的に多いと。求人情報誌であるとか、就職説明会、これまで昭和の時代とかによく使われてたものは、情報源として少なく、ネットによる取得が多いのかなという傾向が見られました。

次、38ページが募集に際しての課題ということでお聞きをしまして、若い世代の従業員を募集するに当たり、課題となっていることありますかっていう質問をさせていただきました。また、その課題となっていることはどのようなことでしょうかということで、具体的にも聞かせていただきました。

ざっとした所見というか、課題として挙がってきたのは——その募集自体を課題と感じている企業・事業者は37%ということで、あんまり若い世代の募集に対して課題があると感じている企業は少ないなという印象でした。

あと課題として挙がってきたのは、やはり子供の体調による急な休みがあるとか、勤務時間が限られているなどとか、あと処遇ですね、賃金面が課題と感じている企業が多いということで、また、意識の世代間ギャップを課題と感じている企業もあったということです。

次39ページなんですけども、行政支援の必要性ということで、この若い世代の従業員を募集する際の課題について、行政による支援の必要性を感じますかという設問を設けました。具体的に、どんなこと、支援の必要性があればどんなことがありますかということでお聞きをさせていただきました。これもまたアンケートの中身を別添でつけてますので、御覧いただけたらと思うんですけど、ざっとした所感としましては、まず行政支援が必要と感じるというのが58%、企業のうちありました。感じないと答えたのが13%でして、行政による支援を求めている企業は意外と多いなという感じを受けました。

丸ポツ2つ目が、具体的な支援につきましては、賃金への助成など金銭的支援を求める声が多かったんですが、その一方で、企業と若者との出会いの場であるとか、PRできるサイトづくりなど、まずは知ってもらうというきっかけづくりを求める声もありました。

40ページなんですけど、選ばれるための企業・事業所の取組ということで、それぞれの事業者が若者及び子育て世代に選ばれるために今取り組んでいることがあれば教えてくださいということでお聞きしたんですが、いろいろ出てきてまして、時短勤務であるとか、在宅勤務、フレックス制、男性の育休であるとか、アニバーサリー休暇などの導入、福利厚生の実施、あと、くるみんマーク取得に取り組んだという返答もありまして、いろんな制度の実施に加えて、あと辞めない風土づくり、教育、対話といった従業員とのコミュニケーションを取る取組をしているとの回答もありました。

以上のアンケートを踏まえて、所見というか、分析結果なんですけど、41ページです。ここ読ませていただきますが、若者及び子育て世代の採用については、売手市場の状況にある中、課題と感じている企業はそれほど多くない結果であったが、若者及び子育て世代の多様な働き方への対応を課題と感じている企業が一定あった。

また、この問題については、雇用環境や処遇の整備・改善に向けた行政支援が必要と感じている企業が約半数以上ということでまとめさせていただきました。

最後ですね、次42ページということで、このグループとしての未来都市創造に関する視点をどう持つべきかということでまとめさせていただきまして、働き手の求める労働環境、ワーク・ライフ・バランスの大きな変化に対して、企業側は十分に対応できているかということ、そうではな

いという現状がアンケートから明らかになったと考えています。

また、今神戸市では、市内中小・中堅企業に勤務して、かつ市内に居住する若年従業員を対象に住宅手当の上乗せ支援を行っています。これは一部の企業の活用にとどまっているということで、アンケートからもですね、企業が求める行政支援の内容がアンケートでいろんなことがありましたので、1つの施策でカバーするのではなくて、多様なメニューできめ細かく支援していくということが必要なんじゃないかというふうにグループとしては読み取っています。なので、今後は支援メニューをもっと増やしてですね、さらにきめ細かな企業への支援を行っていく必要があると考えておまして、売手市場の中、若者及び子育て世代に選ばれるために、委員会としては企業がニーズ変化に対応できるように、支援の継続、見直し、拡充を市に求めていくというふうなことをしていったらどうかということでもまとめさせていただいています。

以上です。

○委員長（門田まゆみ） ありがとうございます。ただいまのグループBの報告について、御質疑等ございましたら御発言をお願いいたします。

○委員（香川真二） 誰も質疑しないので、取りあえずしますけど、すごく分かりやすいアンケート結果だなと僕は思って、もちろん子育て世帯っていうのはもちろん、働いているっていうのが基本にあるので、企業側のほうの対応っていうのを考えていただくというのは、すごく現実的な話だなと思います。

その中で、今の若者というのは、さっき幾つか出てきた時短とかフレックスみたいな、あいう話からすると、時間で拘束されるというよりは、労働で対価をいただくような、そういった働き方、いわゆる昔の働き方とは少し価値観が変わってきてるところに、企業が対応がまだできていないっていうところに何かギャップがあるんだろうなと思うので、そこをどうやって埋めるかっていう課題が見えるアンケートだったなと思うんですね。

今後、そこら辺をどうやって埋めるかというのは知恵を出し合っていけないといけないと思うし、ある程度できる業種とできない業種とか、いろいろと分類されていくのかなと思って聞いてましたという感想ですけど。ごめんなさい。

○委員長（門田まゆみ） 御質疑ございませんか。

（なし）

○委員長（門田まゆみ） それでは、次に現役子育て世帯を調査対象にフィールドワークを実施したグループCの実施結果について、前田理事から御報告をお願いいたします。

○理事（前田あきら） グループCです。幹事の前田から御報告させていただきます。

グループCは、現在子供を育てている世帯の調査の担当でしたので、その方々、保護者に直接対面でお聞きして、御意見を伺うという調査を行いました。

それで、1つ目の調査は、いわゆる未就学児を育てている世帯への聞き取りということで、須磨区の北須磨支所に新たに設置されました、おやこふらっとひろば名谷の利用者——ここは未就学児の利用が基本になっていますので、そこで来られている保護者に対して、資料で添付しております別紙、神戸市の子育て支援策に関する調査票を用いて、グループCの委員が現地で直接対面で1人1人ヒアリングを行いました。

21名の保護者から回答があり、回答については別紙2でマトリックスをまとめさせていただいています。主な意見としましては、例えば、子育て世帯で小さい子供が雨でも安心して気軽に遊べる施設があるですとか、医療費を助成してもらえ病院に行きやすいなど、一定の評価がいた

だけでした。

その一方でですね、保育所に入れなかった、兄弟一緒に保育所に入れない、保育所や一時預かり所がお住まいの近くにない、他都市のように医療費を無償にしてほしいなどの御意見もいただきました。

その中で、神戸市として施策のどこを充実していただきたいかという御質問に対しては、例えば、2人目を考えると、なかなか2人目の出産をしてからの職場復帰が不安というのもあるので一人っ子への支援をしてほしいですとか、所得制限をなくしてほしいなどの制度の拡充も寄せられたほか、先ほど紹介させていただいた御意見のほか、仕事に戻っても、フルタイムで働ける保証がなく、収入の不安があると。働き過ぎると保育料が高くなると、そういったときにプラスアルファの支援があれば仕事に戻れるのになどの、子育てと育児の両立ができるよう仕事復帰の支援をしてほしいという御要望もありました。

先ほど御報告させていただいたのが未就学児を育てている世帯への聞き取り調査でございます。

同日、地下鉄名谷駅ビル内にある神戸名谷ワークラボSUMA i l eの就業者、こちらは就学後の子供を育てている世帯を対象を絞って、事業者の方に御紹介をいただいた就学中の子供を育てている4名の保護者の方に、別紙1の調査票にも御回答いただくとともに、現地でグループCの委員が直接意見交換を行いました。

意見交換の概要については別紙3の議事要旨に記載をさせていただいているんですが、そこで寄せられた主な意見としては、例えば――僕もちょっとこの辺は、あれっと思ったんですけども――のびのびパスポートに関する評価が結構高く、市内、県内、県外一部の美術館、博物館が無料になるのびのびパスポートで、美術館、博物館は子供にとってもよい刺激になるので積極的に活用していると、よい制度だと思いますと複数の方から評価をいただきました。

また、就学後の子育てされてる世帯ですので、当然それまでは未就学児も育てている保護者の方なんですが、出産から就学前までは支援が豊富にあるというイメージを持っておられると。その一方で、中学校から高校生までの間は、体感的にちょっと支援が弱まってる、少ないという印象がありますと。特に、大学生にもなると、所得に関係なく、何か支援があれば、神戸に住み続けるようになるのではないかななどの御意見もいただいています。

この2つの調査を基に、グループCのメンバーがそれぞれの調査の後、意見交流も行い、その後、各グループCの委員の方から所見もいただき、再度報告書をまとめる過程で各委員から御意見をいただきました。

それをまとめた所見なんですが、その全体調査を通じて、未就学児の保護者より中高生の子育て中の保護者の方が具体的に求める施策が多く出されたのではないかと。その中でも、経済的な支援の充実を求める声が強かったと思われます。

神戸市の子育て支援策への採点、評価っていうのは必ずしも100点、満点というわけにはいかない状態でしたので、引き続き子育て支援策の充実、継続した努力が求められると考えています。

また、就学前・就学後、それぞれ同じ傾向があったんですが、他都市の子育て支援制度と比較するっていう御意見がやっぱり多く出されました。その一方で、神戸市独自にどんな施策を行っているのかっていう、その認知度そのものはあまり高くなく、実際の意見として発信力がなく、子育て世代に届いていないのではないかと。あっても使いづらいと。広報や新聞に掲載させていただいていると言うが、それはこちらから取りに行かないといけないので、なかなかその情報がつかみづらいなどの御意見が出されました。そういう意味でも、神戸市が子育て世帯に選ばれ続

けるまちになるためにも、そういった保護者の満足度を高める上でも、施策の広報の在り方や制度設計そのものがニーズに合っていないなどの課題が見えてきました。

加えて、意見交換では公立学校の先生の給料も上げてほしいと、圧倒的に人が足りていないのではないかなど、子供や保護者への直接的な支援だけでなく、子育て環境全体を考えての要望もいただいております。御意見を伺った保護者からは、こうした機会でも直接お話ができてうれしいと。今回のような意見交換をいろんなところで世代を変えて実施してほしいとの御意見もいただいております。

引き続き、委員会として意見交換会などを実施することは、市民の積極的な参加ですとか、市民の多様な意見の把握を掲げる神戸市議会基本条例の実践という点でも有意義であるというふうには考えています。

それで、この後の委員間討議、または委員会の活動報告書の作成に当たってですが、先ほどの報告、所見とも重複する部分もありますが、神戸市が子育て世帯に選ばれ、住み続けたいまちとなるためには、子育て支援のさらなる充実とともに、子育てと仕事の両立という観点からの経済的な支援に応える必要もあるのではないかと。神戸市は、ライフステージに応じた切れ目ない支援というものを掲げているんですが、特定のライフステージに応じた支援の強化、例えば、中学、高校への進学時の教育費の負担の軽減ですとか、出産後、仕事復帰しても家計負担が増加してしまうことへの対応など、焦点を当てて手厚くするということも考えられるのではないかと思います。

他都市の子育て支援制度やイメージと比較する意見が多く出されていますので、一方、神戸市の施策の認知度は必ずしも高くないという実情ですので、対象者が活用できていないという現状もあることから、広報の在り方や、マッチングやニーズに合わせた制度を適宜改善させていくことも求められているのではないかとというふうに考えます。

以上です。

○委員長（門田まゆみ） ありがとうございます。ただいまのグループCの報告について、御質疑等ございましたら御発言をお願いいたします。

（なし）

○委員長（門田まゆみ） 以上で各グループからのフィールドワークの実施結果の報告は終了いたしました。

次に、今年度の本委員会では、子育て世帯に選ばれ住み続けたいまちづくりを調査テーマに、企画調整局との意見交換及びフィールドワークを実施し、調査を進めてまいりました。

調査テーマに基づき、今年度の活動を通じ、見えてきた問題や課題等について、委員の皆様の御意見をお聞きし、その後、それらの問題・課題に対して考え得る政策等についての御意見をお聞きしたいと存じます。

それではまず、今年度の活動を通じて見えてきた問題や課題等について、委員の皆様の御意見はございませんでしょうか。

○委員（香川真二） ごめんなさい、質問というか、今ここで話しするのは、この活動を通じてどういうところが課題かっていうことですよね。今の神戸市とかの、そういうのを感じたところを言ったらいいんですよね。

活動を通じて思ったのは、子育てをするっていうときに、どこの町に住もうかなと選ぶのは、大体子供さんが未就学児から就学児になるぐらいのところのタイミングで、何かまちを選ぼうと

されてるなっていうふうな印象で、そのときには、いろんな物をもらえたりとかの支援とかいうのが選ばれるポイントになってそうなんだと思うんですけど、そこから先、まだ小学校、中学校、高校と子育て続くじゃないですか、長いじゃないですか。そうなってくると、皆さん、働きながら今、子育てされてる方が多いので、その辺の仕事と育児、子育ての両立みたいところで課題を感じられてるなと思ったんですね。

だから、未就学児を育てる子供さんのお母さんにも、将来のイメージがしっかりと湧いて、今、手前の施策だけにとらわれるんじゃないくて、将来こういった施策が皆さんの育児と働くというところをね、支えることになるんですよというのは、やっぱりイメージしてもらえようなことができればいいなと思ったんですね。ちょっとその辺で、住むところを選ぶときと、実際それから先のこととってっていうのの乖離があるんじゃないかなというふうに思ったんで、そのあたりは、今回感じたところです。

○委員長（門田まゆみ） 今の香川委員の御意見に関して、何か皆様のほうからありますか。

○委員（平井真千子） 香川委員の意見に対してっていうことでもないかもしれないんですけど、さっきのグループAの所見のところでも言ったんですけども、やっぱりまだお若い方、社会に出てない方、まだ子育てが始まっていない方にとっては、どういった子育て支援があったら、自分がそのまちを選べるかっていう、そこまでのことってやっぱりイメージできないんやろうな——それは住んで子育てを始めてみないと分からないことなので、だから、必ずしも子育て支援、産んでからこういうメニューがありますっていうことをたくさん並べたり、それをたくさん広報することってというのが、若い世代に対して、神戸を選ばせるっていうことにはならないのかなっていうふうには以前からも思っていましたけども、ちょっとグループAの意見交換の中では改めて感じたっていうところかなと思いました。

それよりも、それは神戸として取り組むのは非常に難しいことなんですけれども、やっぱり将来キャリアが断絶するのではっていう、まず子育てまで行く前の、その結婚をためらわすような、その社会の要因っていうことについて、もうちょっと——これ神戸っていうと難しいですね、国を挙げて考えないといけないことだと思うんですけども——考えないといけないのかなと思いますし、お母さんがとか、女性がついていうことじゃなくて、女性の側だけがキャリア断絶を心配するっていう状況を、男性も、どういう働き方改革とかが望ましいのかなというようなことを一緒に考えていくということが、当然必要なんだろうなと思いますし、男性の側も自分が結婚した場合に、どのような仕事・家事・育児とかいうことに対して、どのようなバランスを持って向き合っていくのかということを考えるのがいいんじゃないかな。そういう意味で言ったら若い男性の意見もちょっと聞いてみたかったなっていう気はしますけど、女性しかちょっと聞き取りの場になかったので——何かこれ、神戸市だけが取り組むことではないので、ちょっと施策として提言するのは非常に難しいとは感じてますけども、結局そこは課題なのかなというふうには感じております。

○委員（大かわら鈴子） 私も今言われたことに同意なんですけども、やっぱり子育てをしていない若い世代でも、やっぱり結婚し、子育てをし、それぞれのライフステージに移っていくというのはすごく大変だと。特に女性に負担がかかるんじゃないかという不安をすごく持っていらっしゃるということがね、今回の調査——いろんなところでされてますけども——その調査見ても分かりました。

特に経済的なところの不安がちょっと強いんですね。

Aグループでしたっけ、ちょっと見せていただいても、これ結婚して子供を持たないという方も、その出されている意見を見たら、その仕事と結婚との両立ができるのだったら子供が欲しいというようなことが言われていたりとかね、やっぱりそれ何人か以上欲しいというような意見も出されてますので、やっぱりそこに対しての行政の支援っていうのはすごく大事なんじゃないかというふうに思います。

今おっしゃったように、やっぱりこの神戸だけの課題ではないということではあるんですが、国のこども未来戦略でしたっけ、あの中でも言われてましたように、若年世帯の負担、経済的な負担をいかに軽くしていくかというところがすごく強調もされていたと思うんですね。それを受けて、久元市長も以前には発言をされてましたけども、あらゆるセクションでの賃上げとかね、そういうことも言われてました。やっぱり神戸市として、そういうところに向き合える、向き合っていけるという、具体化ということが必要なんではないかなと、行政として必要なんではないかなということと、やっぱりそれぞれのライフステージの本当に具体的に何を欲していращやるか、どういうニーズがあるのかっていうところは、やっぱり直接お話を丁寧に聞きながらね、施策設計をしていくことがやっぱり一番大事なのではないかなということを感じました。

以上です。

○委員長（門田まゆみ） 今までの御意見で、皆さんの中で何かありますか。

特に、香川委員がイメージができてないのではないかということに対しての御意見とかはございませんでしょうか。

○委員（岩佐けんや） 意見といいますか、待機児童の解消を神戸市はしましたけども、そういった、してるのにもかかわらず、明石のほうの方が何か子育てしやすいみたいなのが、まだ——今ちょっと明石市の待機児童のホームページを見てたんですけど、待機児童数、ずっと公開されてますけど、令和6年度で50名、まだ待機児童が残ってるっていうのが、実際、この数として出てますけれども、その解消した神戸市のほうの、神戸市は解消してるにもかかわらず、それが知られていないっていうのは、すごく課題なんじゃないかなと思います。神戸市でも全然、明石市とかに、近隣都市に負けてなくて、子育てしやすい都市であるにもかかわらず、皆さんのイメージの中では明石市のほうが子育てしやすいというのは非常に神戸にとっては、マイナスであると思うので、広報については、もっと力入れないといけないんじゃないかなというのは思いました。

以上です。

○委員長（門田まゆみ） ありがとうございます。今の岩佐委員の御意見に対して、何かございませんか。

○委員（大野陽平） 大賛成です。私自身も今、娘がいたりして、ちょうど月齢が同じような保護者の方々ともよく接しますけれども、こんなに育てやすいんだっていうのが、正直、私の印象ですし、周りもよく言ってますね。

このグループC、須磨の名谷ワークラボ、アンケート、意見交換されたのは4名ということで、少ないですけど、この中に子育てしてきたが、資料にある支援策をほとんど知らなかったと。出産一時金、新生児までは分かるが、その後の支援策は知らないということで、たくさんあるんですけど、要は広報って本当に難しいんですよ。だから、どこでどういう広報をしたら、しっかりと届いて、神戸ってこんなにやってくれてるんだって、いいまちだよ、子育てしやすいよねっていうのをどう伝えるのか、費用対効果もありますけど、高いのかというのは、なかなか正解がないので、そこはやっぱり課題はあるかなとは思いますが。本当にもったいないなと。

○委員長（門田まゆみ） ほかにございませんか。

○理事（前田あきら） その広報について、先ほどの事業所で働いている子育て世代の方にもいろいろと意見交換もしたんですけども、中学生、高校生を育てている、この4名の中でもちょっと年齢層が分かれてまして、比較的若い方はもう広報紙や新聞は見ないと。ポストに入っている、もうそのまま折ったままごみ箱に行ってしまうというような御意見の中で、もっとSNSを活用すればいいかと、最近Instagramなどもかなり活用してるので、昔と比べたら、よく見られるようになってるよという評価はいただいていた。

もう一方、大学生を育てている方は、もう広報紙は端から端まで読むんだという中で、LINEも登録してるんだけど、やっぱり広報紙なんだということなので、やっぱり、そのそれぞれの世代に合ったニーズという意味では、やっぱり広報媒体についてはもっと何かをやめてっていうんじゃないくて、もっと広げる努力が要るのかなっていうふうには思いました。

あと、あわせて、出来上がった施策についても、もっとちょっと、こういうのをつくりましたって言った後に、そのニーズがどこまで届いてるのかっていう、合致してるのかっていうのをちょっと考えるべきかなというふうに思ってます、ふらっとひろばで対話されて、新しくできた施策ですとか、こども家庭局が結構重点になってる施策はどうですかって声かけてみたら、ウェルカム定期便であれば、使用してるおむつがそもそもないから、おむつの種類をもっと増やしてほしいですとか、おむつが届くのにかかると、成長のスピードに逆にちょっと合っていないので、もっと届けるタイミングとかを考えてほしいですとか、もっと、もう薬局に、ぱっとそのまま利用券でも買えるようなほうが、ほんまは使いやすいんですよと。わざわざ何かインターネットでするよりはっていうような、その御意見もいただきました。

それとか、何でしたかね、産後ホームヘルプサービスなんですけど、利用されてるのかなというかなりきつい御意見をいただきまして、そもそも使っていない。私の周りの人もこんな使ってる人を見たことがない。その方の感触では、やっぱり知らない人が家に入って対応される、今まで会ったことない人が来てということになるので、そもそも不安感、事故リスクとか、抵抗感があるので、何か、かなりこれ使っていただいているのかなと。本当に困っていらっしゃるから、ちょっとでも子育ての負担感の解消にということで、こういう施策を取り組んでるんですけども、やっぱりそれが必ずしも合致してないっていう側面があるので、そういうちょっと細かいところに、手が届けてないところを改善するっていうことにも、努力するというか。何か出来上がったら、完成なのだと、子育て支援が終わるというのではなくて、やっぱりそこは、せっかくつくった制度であれば、絶えず見直していく、改善していくっていうのが、——小まめに聞いていけば、もうちょっと改善ができるんじゃないのかっていうのは、ちょっと実感としてはありました。

以上です。

○委員長（門田まゆみ） ほかに御意見とかございませんか。

特に、今グループCが主に出てきているわけですが、例えば、グループBの市内企業に関してですとか、そういったところの御意見とかはいかがでしょうか。

○理事（山下てんせい） グループBに関しては、サマリーを読むと、企業というか、事業者の人がちょっと——ニーズにリーチしてないというのが、やっぱりちょっと印象だったんですけど。

正直、今、働き手の多様化というのがあるので、それこそ大企業でも全然倒産する世の中なんです、企業側がしっかり人を雇って、成長していくということがもちろん大事で、絶対に神戸って、働く場所が少ないんです。なので、こういう企業を育てていくっていうことは、非常に大事

なことなんですけど。ただ、果たして、企業が若年世代に選ばれるのかどうか。あるいは、よくビジネスマッチングとか、就活ラボとか、何かそういう就職博みたいなものでは、新しい企業との出会いを創出するようなことをやってるんですけど、神戸市自体が、自分ところの企業が、どういうところが強いのかとか、神戸市の企業はどういういい企業があるんだということを分かってんのかなと、やっぱり思いますので。一応だから、そのために商工会議所があるんでしようと思うんですけど、商工会議所機能してないよねというのがすごくやっぱり私の中でありまして、今回、商工会議所会員宛てにメールマガジン、2,500社に載せたっていうけど、結局返事なかったと言ってたし、非常に残念だったなという気がします。

もっとやっぱり神戸の企業が神戸市と共同して、しっかりと人を雇わなあかんよねというのは思います。

ただ、そのために、じゃあ行政が何かするっていうことはないので、むしろ企業側が行政にこういうことをしてくださいよと意見するのが筋かなと思います。すみません、ちょっと口悪かったです。

○理事（吉田謙治） 非常に難しい課題だなというふうに思いますけれども、私は神戸市内の企業の皆さんがね——企業の皆さんがというよりも、物づくりのまちでずっとやってきたので、これ日本だけじゃありませんが、社会全体が、この技術系といいますか、技能職に対する評価がやっぱり低くなってしまって、でも一方では、物づくりの技術とか機能とかっていうのは、少なくとも分だけニーズが高まってるんだろうと思うんですね。

ですから、神戸高専なんかの取組も、市としてはやっぱり市内の製造業の皆さんに貢献しようということでやっておりますし、ささいなことなんだけど、私がおります西区の鉄鋼団地の中で、大体男の職場なんだけれども、昨今いろいろと、CADとか、要は事務作業とか設計作業で女性を雇うというところが出てきて、それも高校を卒業された女性の皆さんを雇用したところ、若い男性もやっぱり雇用が増えましてね。ちょっと、その製造業のその現場の状況というのが変わってくると、やっぱり就業の形態といいますかね、男性も女性も、若い人たちがそういう仕事に就いてくれるということが出てきてるので、投網をかけて一気に何かを変えるってことが無理だとしても、決して就業機会がないわけではないし、若い人たちがイメージするいい仕事っていうのがね、ある意味でちょっと偏ってるのかなというふうにも思うので、そういうやっぱり意識づけとか動機づけっていうことを我々もやっぱり考えなきゃいけないなというふうに感じてます。

私Aグループ所属だったので、改めて思うのは、若い人たちが持ってるイメージなんですね。子育てが大変、これは経済的にも大変、肉体的にも大変、本人のキャリアアップにも大変というイメージは結構浸透してるんですよ。まだ結婚もしてないのに。そういう悪いイメージが強い一方で、先ほどもありましたけど、子育て支援策を神戸市はたくさんやってるのに、これについての認識が非常に薄いんですよ。

だから、ここのところは、よくよく考えなきゃいけないなと思うのは、本当にやっぱり若い世代の人たちが、お仕事も当然就業機会というのは大事なんだけれども、自分たちの将来、自分たちの人生に対しての積極的なイメージを持てるようにやらないとですね、何もはったりかませと言ってるわけじゃなくて、実態を十分やっぱり御理解いただいてないのと違うかなと。先ほどの明石の話もそうですけどね。そのデータをいろいろ示していけば、別に明石市さんが悪いっていうわけじゃないんだけど、決して見劣りがするような状況ではないわけで、これ神戸だけの問題ではなくてですね、どこかの町から神戸に人口を奪い取っていくっていう話でも本来ないんです

よね。日本全体がそうならないといけないということなので、そういういろんな事業の模範的な、モデル的なことを神戸市としてやれないかなと。したがって、私いろいろ処遇改善大事だから、やったらいいと思うんだけど、保育士の取り合いっていうのは、私はあんまりよくないと思うんですね。

だから、その処遇改善にしても、その賃金を上げてあげるっていうことは、全体的に上げなきゃいけないから、それは要るんだけど、まかり間違っても大都市が周辺の小都市、あるいは小さな自治体のマンパワーとか若い人を奪っていくっていうやり方は、やっぱりよろしくないというふうには思います。

だから、もっとそういう意味では県が頑張ってもらわなきゃいけないんだけど、まだまだこれからやることっていうのは、十分あるんじゃないかなと。民間企業の皆さんの御意見もそうだし、小さな話ですけど、産業振興財団の中でね、面白いと思うのは、1年以内で辞めていく子多いんで、どうしたら1年以内で辞められなくて済むか、経営者セミナーやってるわけですよ。それって、やっぱり経営者の皆さんもね、どうしたらって悩んでらっしゃるんで、そういったことを市としては経済観光局であったり、先ほどのイメージづくりっていうことについては、こども家庭局であったり、そういうことはまだまだやっぱりやっていくべきじゃないかなということをも改めてフィールドワークといいますか、若い人たちの御意見を聞いて、アンケート調査の状況を見ても、認識を新たにさせていただいたので、さらにこういったことを議論できればいいかなと思ってます。

○委員長（門田まゆみ） ありがとうございます。今の御意見に関して、何か御意見とか、御感想とかございますか。

○理事（前田あきら） そうですね、グループの議論ですとか、理事会のほうでも少しお話も出るんですけど、今、吉田理事がおっしゃったような、いわゆる人口減少に対して、神戸がどう発信していくのかっていう観点で——これ予算特別委員会で大野委員もたしか御指摘してたと思うんですけど——いわゆる人口減少全体がもうやっぱり長期化は避けられないというのはあるんだけど、じゃあ、子育て世代をどう増やしていくのかとかっていうことに対する発信っていう点を——もっと安心持てるというか、発信がいると思うんですね。

もちろん、人口減少するので、それに応じた持続可能な社会をつくる、神戸をつくっていくっていうことは、そういう努力もしてるし、市長自身も結構そういう発信もされているんですよね、何か夢物語をすれば、人口が急激に、劇的に増加するなんていうことはもうないんだから、そういうことを前提にしたまちづくりをせなあかんと。それは1つの見識だと思うんですけど、でも一方で、じゃあ、ほんなら神戸市で子供を産み育て、働き続けるっていうことに、やっぱり希望があるんだっていうことの発信できるような広報の仕方っていうのも、もちろん施策ももちろん要るし、やっぱりそういうことを支える神戸市なんだっていう発信の中で、いろんな広報を考えていくというのが、なかなかちょっと市長のほうで出てこないの、ぜひ議会とかね、当委員会のほうからそういう積極的な発信をするっていうのも積極的に議論してはいいのではないかなというふうには思ってます。

○委員長（門田まゆみ） ありがとうございます。

○副委員長（大井としひろ） 当てられましたんで、ちょっと。私もグループBでやらせていただいて、企業の皆さん方、行政支援が必要やと、もう半数以上の方が思っていたいておるみたいなんで、そこにどういう形で行政がスポット当てて補助とか、支援するかって考えると、や

っぱり一番手っ取り早いのは若い人たちには住宅補助かなとか思ったりするんですけど、神戸市の住宅補助の施策の案内を見ますとね、すごい複雑で、私どこに入ってるんやろうというぐらいの、ややこしい手続が書いてありましてね、こういうのをもっと改善していただいて、例えば、住宅情報の会社とか情報誌とかいろいろありますよね、例えば神戸だけじゃなくて、県外でも、神戸市ではこういう施策で、こういう若い人にはこれだけの補助が出ますよっていうようなことを、そういうところの、住宅関係のところに情報をどんどん送って、簡単な手続で、神戸の補助を受けれるみたいな、そんなことをちょっと工夫してもらえたら、もっと若い人たち、神戸でそんな補助金がもらえるのならというような、そんなことも考えていただけるのかなとか、ちょっとそういうのを今回やってみて感じました。

以上。

○委員長（門田まゆみ）　ありがとうございます。

いかがですか。このBに限らずです。全体的にで結構です。

○委員（原　直樹）　グループBに関してなんですけど、このアンケート結果で1つ、ちょっと思ったのは、選ばれるための企業・事業所の取組ってということで、取組何かしてますか、していることあったら回答してくださいということで、この回答としては、時短勤務とか、在宅勤務とか、様々な取組がされているという、そういう回答結果なんですけど、昭和の時代はこういった従業員のための取組として、よくあるパターンとしては、勤務時間終わったら、会社のメンバー一同で飲みに行くとか、飲みニケーションを通じて、また明日への活力につなげていくっていう、そういうのがよくあったと思うんですけど、ただ最近は、もう時代が、そのあたり大きく変わりますので、このあたりも回答結果から見ますと、フレックス制とか、男性育休とか、様々な取組がされているので、会社の取組も変わってるんだなというふうには感じたところなんですけど、ただ、このアンケートで思ったのは、今回そのアンケートの取り方が、取り組んでることがあるんだったら教えてくださいということにとどまっておりましたので、この取組をした結果、どういう効果があったのか、なかったのかですね、そこまでもう一步進んだ、突っ込んだアンケートがあったら、もっとより深い議論ができたのかなというふうに思いました。これちょっと感想です。

以上です。

○委員長（門田まゆみ）　ありがとうございます。

○委員（三木しんじろう）　僕はグループCだったんですけども、今回は須磨区でアンケートを行ったということで、西区にも近いですし、また明石にも近いということで、明石とか西区の方も来られてました。

やはり、地域のいろんな特性があつてですね、考えられていることとか、子育ての仕方も違うと思うんですけども、やはりこの資料の中にもあります、アンケートと一緒にお配りした表が――事務局の方が作っていただいた――PDFで言うたら65なんですけれども、神戸市のライフステージに応じた切れ目のない支援っていう表を作っていただきまして、これを見せながらアンケートを取らせていただいたんですけども、こういうことがあったことも全く分からないということ言われてた方が結構いらっしやいまして、やはり発信の仕方が悪いのか、要は検索の仕方が悪いのかっていう、いろんなところがあると思うんですけども、やはり、なかなか伝わっていないっていうところがありますので、ここも含めて検討は必要だと思いますし、また、実際サービスを受けてみて、これはあんまり芯食ってないみたいなね、あんまりよくないわっていう

ところもあったんですよ。これはね、やっぱりやめるか、違うものに変えていくのか、また更新していくのかっていうことも含めてね、考えていかないと駄目かなというふうに思ってます。

だから毎年毎年、同じことをやり続けるんじゃないくて、どんどんバージョン上げていくごとに知名度を上げていくっていうことも必要なんじゃないかなというふうに感じました。

最初に言いましたけど、またこれ違う区で聞いたら、また違う答えが出ると思うんですけども、やはり子育て世代にとっても——まだ学校に入っていないお子さん、また小学校、中学校のお子さんと、高校生、大学生のお子さんと、いろんな保護者の方とお話ししたんですけども、皆さん言われてることは違うんですけども、やはりあんまり御存じないっていうのがすごく印象だったので、これやはり、分かりやすくやっていったほうがいいんじゃないかなというふうには感じました。

以上です。

○委員長（門田まゆみ）　ありがとうございます。

○委員（よこはた和幸）　神戸は23大学、7万人の大学都市であるんですけど、神戸に住まない——私もその1人でありましたけど——市外に転出して、いわゆる転出超過の市であると。今日、この間、私グループAだったんですが、いろいろ神戸愛がある中に、やっぱり神戸の中に就職したい企業というのは本当はあるんですよ、細かいのいっぱいあるんです。ただ、やっぱり東京の重力に——全部大企業があるので行ってしまうという中であるなということを感じました。

子育てに関することは、いろんな情報が、欲しい情報だけ人は取りますので、やっぱり1つじゃなくて連なるパッケージっていうのが必要なんだなということを感じました。

この委員会というのは、私は大変幅広くて、プラス思考でやってる委員会だというふうに思っていて、大変有意義な意見もあれば、マイナスの意見もありますけど、私はこの委員会は大変前向きに、プラスの面でしっかりおまとめをいただきたいなと思います。

○委員長（門田まゆみ）　ありがとうございます。

ほかに御意見とかございませんでしょうか。

（なし）

○委員長（門田まゆみ）　次に、先ほど御意見がありました問題や課題等に対して考え得る政策等について委員の皆様の御意見等ございませんか。

今まで出てきた意見の中では、子育て世代に対して将来的なイメージが湧かないのということ、あと広報で伝わっていない、理解されていない、施策がニーズに合っているのか検証が必要である、また、働く場が少ない、働く場に対してもきめ細かな支援が必要というような課題が出てきておりますけれども、これについて。

○理事（木戸さだかず）　すみません、働く場が少ないというのは、根拠はどこになるのか、ちょっと教えていただけますか。

というのは、アンケートで、企業側のアンケート取ったときに、求人はするけど人が来ないという今状況なので、働く場は提供してるけど来ない。要はマッチングしてないんですよね。ニーズに合ってるかどうかは別にして。

働く場がないって言い切っちゃうのは、ちょっとどうかなと思いますが、いかがでしょうか。

○委員長（門田まゆみ）　今出てきた御意見の中で、希望に合ってる働く場が少ないということです。申し訳ありません。

いかがでしょうか。

○理事（吉田謙治） 政策っていうふうに聞いてしまうと、ちょっと構えてしまう。今話があったのは、これ課題なんだろうと思うんですね。課題を解決するためにどうしたらいいのかっていうのは、ちょっとこの場で、すぐさま言うてみいと言われても、ちょっとなかなか大変だなというのがあるので。これ市長部局なり当局のほうで、対応できるかどうかっていう問題も当然ありますから、ちょっとなかなかこの場でやるのは大変だなと思うんですけども。どんなもんでしょ

うね。

○委員長（門田まゆみ） 政策って言うと、確かにジャンプアップし過ぎるのかなというのはあるんですけども、こういう対応があれば、こういう支援が必要なんではないかとか。

○理事（木戸さだかず） すみません、この委員会自体が市長に報告するかどうかは別にしても、この子育て世帯とか、選ばれるまちになるために、神戸市はどういう方向性を向いたらいいんだっていうことをみんなでまとめていく会かなと思っておりまして、個別具体の政策——委員の中で意見があれば委員間で討議してもいいと思うんですが——ざっと、まずは今日出た方向性ある程度見えたと思いますので、その方向性を正副できっちりまとめていただいて、さらに何か皆さんからあれば、それからもう一度っていう感じのほうがいいのかな。まあ、日が取れないのであれば、今日の意見でざっくりまとめたほうがいいんじゃないかなと思います。

個別・具体の案件出しちゃうと、それこそ賛否分かれるとか、もうぐちゃぐちゃになって、訳分からなくなるので、その方向で行っていただけたらと思うんですが、いかがでしょうか。

○委員長（門田まゆみ） 分かりました。それではまた理事会のほうで……

○理事（木戸さだかず） 今日ある程度、各委員さんの方向性というか、出たことを——委員長まとめられたように、それを正副できっちりまとめていただいて、示していただけたらいいんじゃないかなと思います。

○委員長（門田まゆみ） すみません、勘違いをしておりました。

それでは、委員長と副委員長で、今日いただいた御意見をまとめさせていただくという形よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○委員長（門田まゆみ） 分かりました。

それでは、ほかに御意見がないようでしたら、もうこれで委員間討議を終了させていただきます。

本日各委員からいただいた御意見は協議結果を基に、理事会で報告書案を作成し、次回の委員会でお示しをさせていただきます。

次に、市民報告会であります。本委員会の今年度の活動内容を広く市民に知っていただき、神戸のまちづくりについてさらに議論を深める機会とするため、令和7年5月22日木曜日、午後6時から市民報告会を開催したいと考えております。会場は本会議場を予定しております。なお、市民報告会の詳細については、理事会にて決定したいと存じますが、市民への周知については、市会ホームページ等を活用してまいりたいと考えております。

以上の方針で進めていきたいと存じますが、御異議はございませんでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（門田まゆみ） 御異議がありませんので、本会議場の使用について、市会運営委員会に申し出たいと存じます。

次に、次回委員会は、令和7年4月9日水曜日、午前10時より28階第4委員会室において開催

をいたしますのでよろしくお願いいたします。

○委員長（門田まゆみ） 本日御協議いただく事項は以上であります。

本日の委員会はこれをもって閉会いたします。どうも御苦勞さまでした。

どうもありがとうございました。

（午後 4 時23分閉会）